

**戦略を立てる (知る) ～3年生～**

令和6年1月13日(土)・14日(日)に実施される大学入学共通テストまで残り約6週です。この期間内に、3年生は模擬試験やパックテストを5回受験しますが、この中の一つは鹿児島大学キャンパスを会場として実施されます。共通テスト本番とは教室や座席が異なりますが、「大学の講義室」という環境でのリハーサルができる意義は大きいので、起床や朝食の時間、休憩時間の補食等、しっかりとシミュレーションを行いましょ。

現在、続々と模試の結果が届いています。点数や判定に一喜一憂せず、次の模試や演習までにどこを強化するのかを決めて実践しましょう。今は「栄光への途中」です。一步一步着実に歩みを進めていきましょう。

希望する大学の特徴も確認しておきましょう。東北大学工学部では40人の定員増が、岡山大学工学部では30人の定員増が明らかになっています。理系学部は定員増加は学部改組や新設が影響していますが、熊本大学でも情報融合学環の新設など、枠が増えていきます。単なる得点や受験科目だけでなく、定員の増減も想定して受験校を選定しましょう。

また、鹿児島大学医学部保健学科は〈共通テスト:二次試験〉の比率が〈9:4〉です。これに対して熊本大学医学部保健学科は〈3:4〉です。自分の気持ちとも向き合いながら、共通テスト重視なのか、二次試験重視なのか、戦略を練る必要があります。

他にも、受験において注意しておきたい数字があります。「反動」という動きです。これは、前年度に高かった倍率が、今年度は下がる(逆もあります)動きのことで、以下に例を示します。数字は前期日程結果です。

九州大学 (理・数学)	2.3 → 1.7 → 2.1
熊本大学 (工・材料)	2.1 → 1.4 → 1.6
鹿児島大学 (多元地域)	2.0 → 2.4 → 1.4

【2021年度入試 → 2022年度入試 → 2023年度入試】

もちろん「反動」は確定ではありません。しかし、入試に関するさまざまな情報を活用してストレスやモチベーションをコントロールすることは大切なことです。受験にポジティブに向き合いながら学習を重ねましょう。

君たちも受験生 ～1・2年生～

3年生は今、毎日共通テストや二次試験対策に取り組んでいます。こうした対策こそが受験勉強と思われがちですが、意識改革をしましょう。なぜなら、共通テスト

で必要とされる学力は、多くが2年生までに「授業」で学ぶ内容であり、毎日の授業や予習復習、週末課題が実は受験勉強になっているからです。日々の取り組みが受験に直結していると自覚し、日頃の学習の質を上げていきましょう。また、受験に向けて今年度中に以下の①～③を実行していきましょう。

①「なれる自分」を基準にする

難易度だけでなく、その大学で何が学べる(体験・スキルアップ・取得資格)のか、成長した自分の姿を想像しましょう。

②目標達成のために必要な勉強

「進路指導室だより7月号」で触れたように、試験結果を分析して自分の課題を「分割」しましょう。漫然と勉強するのではなく、「必要な学力をつけるために勉強する」という意識を持ちましょう。

③授業で勝負、そのための予習復習を徹底する

予習・授業・復習を徹底して、「その時」に理解することを心掛けましょう。「進路指導室だより6月号」で紹介したように、定期的な復習で定着させましょう。

共通テスト情報 ～R7入試～

各大学が、令和7年度入試情報を続々と発表しています。以下に、「情報I」の概要を示します。

情報Iの共通テスト内の配点比	国公立大学の割合
全体の10%未満(配点が低い)	58%
10%(1000点満点中100点)	33%
全体の10%以上(配点が高い)	8%

続いて、いくつかの大学の例を示します。

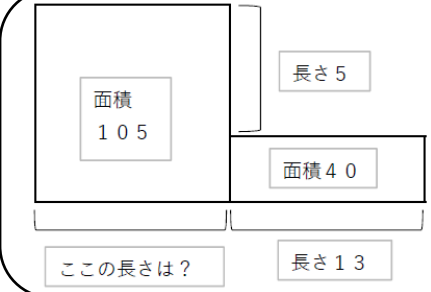
鹿児島大学	法文学部	共テ 620点中20点
	理学部	共テ 800点中20点
九州大学	教育学部	共テ 475点中25点
	工学部	共テ 520点中70点
大阪大学	人間科学部	共テ 630点中30点
	薬学部	共テ 425点中25点

「理系だから高配点」ということはありません。また、合格ライン周辺には多数の受験生がいることから、配点が低いからといって過度に軽視しないようにしましょう。国語や数学①の変更にも留意しながら、早く受験生としての意識を高めてください。

共通テストまであと44日。頑張り3年生!

生きる力 とは

1年5組担任 前川 可成



左の図を見ながら考えてください。
長方形を2つ組み合わせています。
左の長方形の、横の長さはいくら？
さて、どう考えますか？
ただし、答えは整数とは限りません。

さて、答えです。簡単でしたね。13です。

え？面倒くさかったですって？そういう人は、恐らくは…

①右側の『面積40』の縦の長さを求め、②①と長さ5を足して『面積105』の縦の長さとし、③『面積105』になるよう、横の長さを求めた、という人でしょうね。

では、この解き方はどうでしょう？

右上の長方形(図で言う『長さ5』と書いてある区画)の面積は $5 \times 13 = 65$ 。ここと『面積40』を足すと面積は105。この値は左の長方形と同じ面積。縦の長さが同じなので横の長さも同じはず。よって13。

どうでしょう？同じ問題でも、与えられたもののみで答えを探すよりも『補充』して答えを求める方が楽な場合があります。

本題に戻ります。タイトルにある『生きる力』。一応定義は文部科学省のホームページにもあるのでここでは割愛します。自分で調べてみてください。今回は『視点を変える(複数持つ)』という視点で記載します。

あなたは公道を歩いているとき、どのようなことを考えていますか？前から来る自転車に気をつけよう、でしょうか。こちらに向かって歩いてくる人をよけなきゃ、でしょうか。視点を変えれば、あなたの後ろから近づいてくる人にとっては、あなたが丁度通行の妨げになっているかもしれませんね。その視点はありますか？

あなたは他人に意見を述べる時、自分が疑問に思ったことを話すことがあると思います。その時点で、あなたが疑問に思ったことについての背景を考えたことがありますか？自分の意見が常に正しくて、そうでない(自分の意向にそぐわない)ものは常に悪いと考えたことはありませんか？

野球で名をはせた野村克也さん(=野村監督)は生前こう言っていました。『**先入観は悪。固定観念は罪**』と。面積の問題を例にとると、縦と横の長さを求めなければ面積は出ないという固定観念は無かったでしょうか。公道の例だと、自分は前に進んでいるから前だけ注意しておけば良いという先入観は無いでしょうか。意見の例だと、今までこうやっていたからそれ以外の考え方はおかしいという固定観念は無いでしょうか。

さて、生きる力の概念は『身につけたものを将来どう活かすか』が大まかな考え方で、もっと平たく言えば、『変化に対応する力』です。つまり、目の前のものに囚われてしまうと変化が生じたときについていけない自分を自身で作り上げてしまうということ。多様性という言葉を用いるのであれば、変化に対応する力を備えねばなりません。そこには『先入観』や『固定観念』というものは変化の妨げとなります。お互いに『他人』と『変化』を認め合える社会でありたいですね。

考えることの大切さ

2年8組副担任 高山 倫広

昨年、情報の授業で（担当した生徒には）話しましたが、私は、共通教科「情報」の教員として県内で初めて採用された二人の中の一人です。そのきっかけは、平成18年の3月、大学院での論文発表も終わり、今後について考えていた時期に、担当の教授から「近くの高校で情報の非常勤講師を募集しているのでやりませんか？」と唐突に話を振られたことがきっかけでした。ある事情で、あと半年は研究生として大学に残ることが決まっていたものの、毎日通学する必要はなかったもので時間的に余裕があり、金銭的なメリットもあったので二つ返事で引き受けることにしました。それが、私が教科「情報」の教員となったきっかけであり、その初めての教員生活の舞台となったのがここ鹿児島中央高校です。

当時の情報の授業はWord、Excel、Powerpointの練習の場といった授業内容ばかりで、全国的にも生徒だけでなく先生方までもが「テストもしないし適当でよい教科」の考える人がかなり多い状況でした。それから約20年が経ち、ほとんどの授業でコンピュータが使われるようになりました。また、みなさんの年代から「情報I」が共通テストで出題されます。現状は大学の配点などからも、それほど重要視されていないのでは？という意見もありますが、情報モラルやデータ分析、アルゴリズム的思考など、テストに関係なく、情報社会で生きるための知識や技能が多く盛り込まれた科目なのです。授業は一年次にしかなくても、これからの社会においては、常に学ぶ必要のある科目です。

さて先日、教育相談があり、大学等への進路情報を調べたことかと思います。皆さんは、受験科目をどうやって調べましたか？ 上記の通り、「情報I」が共通テストに追加されるので、文科省からの指示もあり、ほとんどの大学が例年になく早いタイミングで配点を公開しています。本で調べた人はメディア特性の授業でも伝えた通り、「本の情報はまとまっているが、古い情報である可能性」があります。せっかくタブレット・スマホをもっているのですから、それを使って有効に活用し調べましょう。

調べるという作業は面倒かもしれませんが、最新情報を得るという面だけでなく、その行動・経験が知識につながります。勉強はどうでしょう？ 授業や教科書を見て、問題の答えを見て、それだけであなたの「知識」になっていますか。自分で書いて、考えるという行為があつて初めて忘れことのない「知識」になるのではないのでしょうか。

一人一台タブレットの時代になり、情報を「いつでも・どこでも・誰でも」入手できるようになりました。これを活用することはもちろん大切ですが、そこが終着点になっては決して成長はあり得ません。

・「情報は知識にあらず。知識とは唯一経験から生まれるものだ。」A・アインシュタイン
・「最終的には自分で考える覚悟がないと、情報の山に埋もれるだけである。」羽生善治
時代も職業も全く異なる二人ですが、「大量の情報＝データ」を得ただけでは意味がなく、それを使って考え「自分の糧＝知識」とする、行動と経験の大切さを伝える言葉といえます。ChatGPTなどのAIの普及によって、ある程度のことは本で調べなくても、あまり自分で考えなくても、求める答えが得られるようになりました。AIを利用することの是非を語るつもりはありませんが、AIは（今はまだ）あなたの「知識の代わり」にはなれません。まして、入試にAIは持ち込めません。自分の知識を深め、人生の糧とすることができるよう情報を使い、かつ考えていく必要があるでしょう。

あなたは、「あまりよくわからないAI」に自分の人生を託せますか？

「随想メモ」を見つけて…

3年4組 担任 牧之瀬 義広

人前で話す機会が多いので、話のネタが浮かんできた時にはスマホなどにメモを残すようにしているのですが、今回、「進路だより」の原稿の執筆依頼を受け、話のネタが何かないかと過去のメモを見返していたら懐かしいものが見つかりました。59期の皆さんの入学式のLHRのために、話のネタをメモしたものです。59期の皆さんを対象にした進路だよりへの私の寄稿は、おそらく最後になると思われるので、今後の進路を現実的なものとしてとらえられている（と思われる）皆さんにこのメモの内容を贈りたいと思います。ぜひとも、「今までの自分の高校生活を振り返るとどうだったかな…」と思い返しなが読んでみてください。今まで寄稿してきた話や、学年朝礼時の話などと重複する部分も多いですが、それはそれだけ私の「思いの強さ」が強いのだと思ってもらえればありがたいです。以下がこのメモの内容です。

入学式。とりあえず、「入学おめでとう！！」

「なりたいものがない人」

→ 「なりたいものがない」人、皆さんにこそ無限の可能性が秘められています。

「なりたいものがある人」

→ 「なりたいものがある」人、ぜひ一度価値観をぶち壊してみてください。今やりたいと考えていることは、本当にやりたいことなのか？「これでいいや」で決めてない？

この3年間の過ごし方で未来のあり方は大きく変わります。多くの経験を積み、多くのことを学んでください。既存の価値観や枠にとらわれない、「凄い」高校生になってください。世の中の変化はすでに起き始めていたが、コロナ禍で「当たり前が当たり前でなくなっていく」スピードが加速しています。新しい価値観を生み出すことのできる人材がこれからの世の中には必要です。自分の人生を人任せにしないでください。あなたの人生の主演はあなた。既存の枠にはまったゴールに向かう人生ではなく、自分にしか作れない人生のゴールをつくってほしいです。

このメモを見たとき、高校からの巣立ちを準備し始めている皆さんに、改めてこの話を贈りたいと思いました。皆さんには、ぜひとも高校生活の次のステージでも、「凄い自分になること」、「自分にしか作れない人生のゴール」を実現するためのステップを踏んでもらいたいです。そして、「そうありたい」という気持ちは、その後の人生も挑戦にあふれた楽しいものにしてくれるはずです。

人生は長い道のりに例えられますが、その場面ごとの頑張りどころがあると思います。進路の目標は人それぞれで多様ですが、今が次のステージに進むための「頑張りどころ」です。ここを抜ければ、新たな人生のステージが皆さんを待っています。次のステージへの大きな希望と期待を持って、高校生活の残りの期間を全力で駆け抜けましょう！